



Nature News

撮影：2026年3月6日 網張の森

▲・▼冬芽の観察▼・▲



ダケカンバ (カバノキ科)

標高の高い山岳地帯に生育する樺という意味で、「岳樺」と書きます。顔のように見える葉痕にも注目。



ミズナラ (ブナ科)

木材は重硬で美しく、高級家具やウイスキー樽として世界的に高く評価されています。秋に実るドングリは、クリと並んで冬眠前のクマの主食で、よくクマ棚ができます。



コシアブラ (ウコギ科)

若芽は、タラノメと並び人気の山菜です。和名の由来は、昔、この木の樹液を漉して、槍や刀などの錆止め用の油として使われていたことによります。

▲・▼野鳥や昆虫との出会い▼・▲



オオアカゲラ (キツツキ科)

オスは頭頂が赤く、メスの頭頂は黒です。



アカゲラ (キツツキ科)

オスは頭頂が黒く後頭が赤です。メスは頭頂部全てが黒です。



コゲラ (キツツキ科)

日本で最小のキツツキです。オスの後頭部の左右両側にそれぞれ3~10枚の小さな赤色羽があります。小さいので見えたらラッキーだそうです。



森を歩いているとキツツキのドラミングが聞こえてくることがあります。網張の森で見られるキツツキの仲間は、**オオアカゲラ・アカゲラ・アオゲラ・コゲラ**です。オオアカゲラはアカゲラに似ていますが、より大きく、胸から腹にかけて縦じま模様のようなものがあります。アカゲラは、背中中の「逆ハの字」の白斑が特徴です。



ゴジュウカラ (ゴジュウカラ科)

頭を下にして幹を歩くことができます。



クロカワゲラの仲間 (クロカワゲラ科)

氷河期時代の生き残りと言われています。雪の上を上流に向かって歩く姿が観察されます。